



島田市の教育

「令和7年度全国学力・学習状況調査」から見える島田市の子供

1 調査の概要

- ◇目的
 - ・児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、授業改善を図る。
 - ・本調査の結果を子供への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇実施日 令和7年4月17日（木）
- ◇実施対象 島田市内全ての小学校6年生と中学校3年生
- ◇調査内容
 - ・教科調査（小学校→国語・算数・理科）（中学校→国語・数学・理科）
 - ・生活習慣や学習環境等に関する質問紙

2 調査結果の概要

(1) 教科に関する調査結果

＜調査結果（平均正答率）を領域別にまとめた。＞

＜平均正答率＞

全設問における正答数の割合を算出した値（個人の正答率）を足し合わせ、子供の数で割った値

＜記号の見方＞ 全国（公立）平均正答率と比べて

◎：＋3ポイント以上 ○：＋1～＋3ポイントまで □：概ね平均並
 △：－1～－3ポイントまで ▲：－3ポイント以下



国語

小学校は全体として全国をやや下回る正答率となった。中学校は全ての領域で全国の平均を上回る正答率となった。

学校種	全体	領域別			
		話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	・言葉の特徴や使い方に 関する事項(小・中) ・情報の扱い方に関する事項(小) ・我が国の言語文化に関する 事項(小)
小学校	△	□	□	△	△
中学校	○	◎	◎	○	○

小学校 ☆成果 ★課題

- ☆図表などを用いて、自分の考えが伝わるように工夫して書き表す力が付いている。
- ☆目的や意図に応じ、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を決める力が付いてきている。
- ★目的や意図に応じ、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けることに課題がある。（文章を読む目的を明確にして必要な情報を捉えることに課題がある）
- ★漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。

中学校 ☆成果 ★課題

- ☆相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように工夫して表現する力が付いている。
- ☆目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする力が付いている。
- ☆文章全体と部分との関係を捉え、登場人物の設定の意図を理解する力が付いている。
- ☆事象や行為を表す語彙について理解している。
- ★文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることに課題がある。

算 数・数 学

小学校は全国を下回る正答率となった。中学校は全体としては概ね全国の平均並みの正答率となったが、全国を上回る正答率の領域もあった。

学校種	全体	領域別			
		数と計算	図形	変化と関係	データの活用
小学校	▲	▲	△	▲	▲
学校種	全体	領域別			
		数と式	図形	関数	データの活用
中学校	□	△	□	△	◎

小学校 ☆成果 ★課題

- ☆示された資料から必要な情報を選び、数量の関係を式に表し計算する力が付いている。
- ☆伴って変わる二つの数量の關係に着目し、必要な数量を見いだす力が付いている。
- ★目的に応じて適切なグラフを選択して量の増減を判断し、増減を判断した理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。
- ★基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述することに課題がある。
- ★量の変化を割合で理解することに課題がある。

中学校 ☆成果 ★課題

- ☆事柄が常に成り立つとは限らないことを証明する場面において、反例をあげて説明する力が付いている。
- ☆不確定な事象の傾向を捉え、（どちらが勝ちやすいか）判断した理由を数学的な表現を用いて説明する力が身に付いている。
- ★素数の意味理解に課題がある。
- ★一次関数 $y=ax+b$ について、変化の割合を手がかりに、 x の増加量に伴って y の増加量を求めることに課題がある。

理 科

小学校は全国を下回る正答率となった。中学校は概ね全国の平均並みのスコアとなった。（※R7 中学校理科のみIRTスコア）

学校種	全体	領域別			
		エネルギー	粒子	生命	地球
小学校	▲	▲	△	▲	△

中学校

□

※IRTについて 児童生徒の正答・誤答が問題の特性(難易度等)によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学カスコアを推定する統計理論。

小学校 ☆成果 ★課題

- ☆土の粒の大きさによる水の染み込み方の違いについて、「結果」や「問題に対するまとめ」を手がかりに、他の条件での結果を予想して表現する力が身に付いている。
- ★実験の方法が適切であったかを検討し、表現することに課題がある。
- ★乾電池のつなぎ方について、つなぎ方と電流の大きさの關係についての理解に課題がある。
- ★発芽の条件について、差異点や共通点を手がかりに、新たな問題を見だし、表現することに課題がある。

中学校 ☆成果 ★課題

- ☆身の回りの問題を解決するための問いを自分で設定する力が付いている。
- ☆他者の科学的な探究から、自分の問いや身近な生活との關係などを見付ける力が身に付いている。
- ★これまで学習した理科の知識及び技能が、概念として身に付いていないことに課題がある。
- ★元素を記号で表すことに関する知識及び技能に課題がある。

(2) 児童・生徒質問紙に関する調査結果からわかること

《よい傾向》

- ☆毎日朝食を食べ、ほぼ決まった時刻に寝起きしている。
- ☆学校に行くのが楽しいと思う。
- ☆人の役に立つ人間になりたいと思う。
- ☆自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。
- ☆地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。
- ☆5年生（中学校2年生）までに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器を多く（週3回以上）活用している。
- ☆PC・タブレットなどのICT機器を使って、文章や発表のスライドを作成、情報収集をすることができる。
- ☆5年生（中学校2年生）までに受けた授業で課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。

《力を入れたい》

- ★土曜日や日曜日など学校が休みの日の学習時間を増やす。
- ★本や新聞を読むことを通して、文字に親しみ、読解力を高める。
- ★算数・数学や理科で学習したことを普段の生活の中で活用する。
- ★自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表する。

(3) 今後（継続して）力を入れたいこと

授業について

- ・目標を明確に設定し、子供と共有することで、子供一人一人が課題解決に向けて見通しをもって、主体的に取り組めるようにする。
- ・子供が「なぜ？」「解決したい！」とわくわくした気持ちが芽生える問いや実生活との関連を図った課題設定により、子供たちがより自分事として考えられるようする。
- ・探究的な学習を重視し、子供が自ら課題を追究する活動、自分が調べたことや考えたことが伝わるように工夫してまとめ表現する活動を意図的に取り入れる。
- ・子供自身が学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見つめ、次の学習につなげることができるよう振り返りをしたり、教師が声掛けしたりする。
- ・ICT機器を活用し、情報活用能力を養うと共に、情報を共有し協働的に学習を進めていくようにする。
- ・デジタル教材を活用し、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解の程度に応じた学びができるようにする。

教育活動全体について

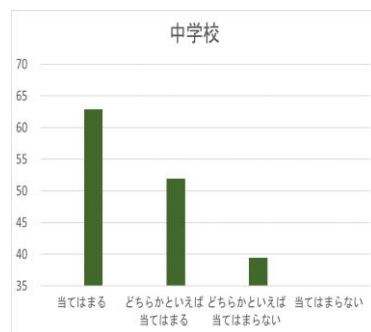
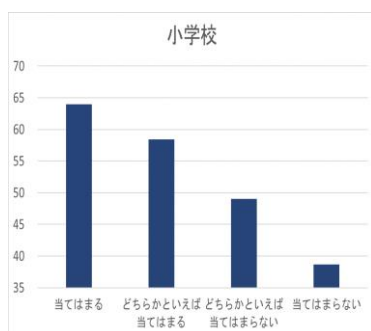
- ・島田市が実践している「夢育・地育」をさらに推進し、地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会を多くし、島田を愛する心を育む。

※各小中学校からも「学力向上へ向けた学校の取組」を、各学校の実態を踏まえて具体的にお知らせする。島田市の子供に、確かな学力が身に付くように今後も努力する。

3 保護者のみなさまへ

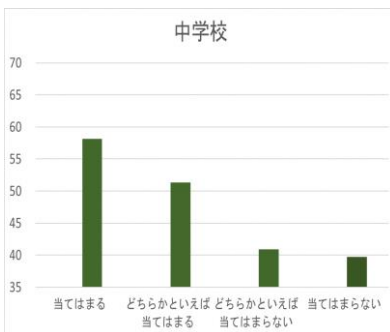
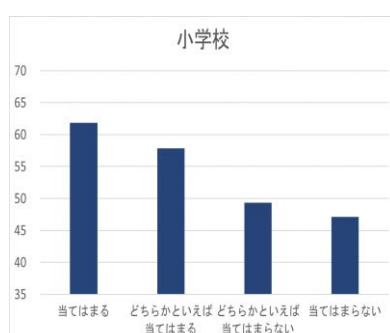
課題解決に向けて、自分で考えて（計画を立てて）学習を進めていたり、話し合う活動を通して考えを深め新たな考えに気づいたりする子供の方が、平均正答率が高くなる傾向が見られます。また、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている子供の方が、平均正答率が高くなる傾向が見られます。

「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」平均正答率との関係

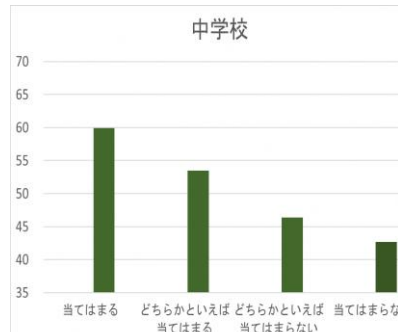
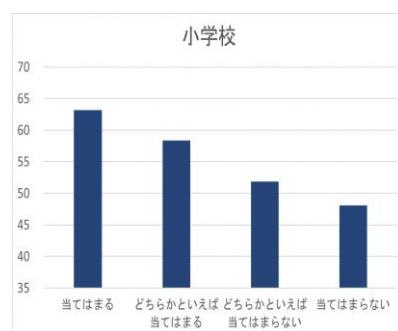


※当てはまらない 正答率35%以下

「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができていますか。」平均正答率との関係



「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」平均正答率との関係



- ◇日頃から、子供たちが自分で考え、判断をし、行動していくことができるように、子供の考えを聴き、支える声掛けや、頑張り・努力を具体的に認める声掛けをしていきましょう。
- ◇家庭学習で、分かったことを確認したり、分からなかったことを明確にして復習する等、子供自身が自分に必要な学習を考えて取り組めるよう見守りやアドバイスをしていきましょう。
- ◇社会の動きに関心を持ったり、様々な考えにふれたりすることができるように、子供と社会の出来事やニュース、これまでに読んだ本などについて話す機会を設けましょう。
- ◇テレビゲーム・携帯電話・スマートフォン・コンピューター等の使い方について、御家庭で話し合い約束を決めましょう。また、決めた約束を守っているか時々確認をしたり、必要に応じて内容を見直したりしていきましょう。